

(科目名) 京都の自然と文化的景観を活かす			部局の学部専門科目として提供	
(所属部局) 地球環境学堂	(職名) 准教授	(氏名) 深町加津枝	(開講期) 後期	(授業形態) 教室講義と野外講義
			(対象回生) 2・4 回生	(対象学生) 全学生
(授業の概要・目的)				
<p>人が生業や生活を通じ人と自然とが関わり合う中で形成されてきた農山漁村では、地域固有の文化的景観がみられる。景観を保全するという事は、単純に今、目の前に見えている姿をずっと変わらないようにとどめることではない。その景観を成り立たせてきた、直には目に見えない仕組み（時には自然の力、時には人の働きかけによる）を持続させていくことによって、同じ景観を見ることのできる機会を将来に引き継いでいくことである。とりわけ農林業が作り上げてきた文化的景観であれば、その景観が続いていくための社会的経済的な仕組みや、将来にわたって継続的に利用される状況を提供することが重要といえる。そのためには、景観の現状を把握する作業と同時に、景観が成り立ってきた歴史や仕組みを明らかにし、それらを総合して今後取り得る方向性を探り出すアプローチが必要となってくる。本授業では、日本の代表的な文化的景観である京都の里山を対象に、その特質や課題を実習も含め、包括的、実践的に学び、地域に根ざした文化的景観の保全の方向性を考える。</p>				
(授業計画と内容)				
<ol style="list-style-type: none"> 1 京都の自然と文化的景観を切り口にして 2 京都における人と自然の関わり方の歴史（1） 3 京都における文化的景観/吉田山(実習) 4 京都における人と自然の関わり方の歴史（2） 5～12 京都における文化的景観/丹後半島(実習) 13 これからの文化的景観の保全と活用に向けて（1） 14 これからの文化的景観の保全と活用に向けて（2） 				
(成績評価の方法・基準)				
各回の出席と課題・レポートによって評価する				
(履修要件)				
特別な予備知識を必要としないが、野外実習に参加することを前提に最大 15 名とする				
(教科書)				
なし（講義にて紹介）				
(参考書)				